

令和5年度 石川工業高等専門学校の課題 外部評価報告書



令和6年3月

はじめに

石川工業高等専門学校は、昭和40年4月に国立高等専門学校第4期校として設立され、爾来、本科9,188名(女子1,631名)、専攻科589名(女子113名)もの人材を送り出してきました。

この間、社会、特に産業技術の世界は設立当時、想像もつかなかった変貌をとげ、高等教育また高等専門学校に期待される役割も大きく変わり続けてきました。

石川高専が送り出してきた人材は、このような時代の変化に適応し、時宜にかなったカリキュラム編成や授業内容(シラバス)の変更等を重ねてきた成果であり証しでもあります。

近年で言えば、主に情報教育関係で先導的役割などを担うべく、情報セキュリティ人材育成事業、全学科での情報教育強化・高度化推進プロジェクト、MDASH応用基礎レベルの全学科取得、産業DXをけん引する高度専門人材育成事業に取り組みなど、本学の教育システムは絶え間ない変革と進化を続けてきました。さらには、高度情報人材養成のため令和7年度からのコース制導入等も決まり準備を進めています。

大きな変化として、法令等の改正により平成3年以降、高等教育機関は、外部評価も含め自ら点検・評価を行い、結果を公表することで教育の質の向上・改善に取り組んでいくことが強化されました。

本学では、平成7年度に自己点検評価部会を設置して自己点検評価を実施し、その結果を報告書『明日へ向けて』として3～5年ごとに発行しております。また、同時に「運営諮問会議」を設置し、毎年地域の教育研究機関、行政機関、企業等の学外有識者の皆様による外部評価を受け、ご指摘を受けた課題について改善を図り、本学の運営にフィードバックしています。

「運営諮問会議」による外部評価は、地域の事情に精通されている有識者の皆様から評価をいただくものとして、毎年実施し、国立高専の重要な使命の一つである産学連携や地域への技術者人材輩出等について地域の皆様の様々なニーズを踏まえたご意見をお伺いできる貴重な場と認識しております。

質の向上に資する外部評価としては「運営諮問会議」の他にも、独立行政法人法に基づく中期目標・中期計画等の政府への実績報告制度、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による学校運営、健全性を評価する機関別認証評価(直近受審は令和3年度)・認定専攻科(直近受審は平成30年度)・学位授与に係る教員の適性を審査する特例認定(平成26年度より毎年度受審)の制度、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるワシントン協定に基づく国際認証(令和4～5年度に受審)などがあり、これらを十分に活かして、石川高専の教育の質を向上させてまいります。

令和5年度におきましても、本学の活動状況について、教育・研究・社会貢献・管理運営等の諸活動に区分して地域の学外有識者の皆様にご説明させていただくとともに、忌憚のないご指摘とご意見を願いますため、令和6年3月4日に運営諮問会議を開催いたしました。

本報告書は、各委員の皆様からの評価をそのままの形でまとめてあります。良い評価をいただいている項目がある一方で、厳しい評価をいただいた項目があることも認識しております。

厳しい評価内容項目については、今後、逐次分析し、それらに対応した改革を積極的に遂行することが、本学に課せられた重要な使命であり、それがまた評価していただいた委員の皆様の労に報いることでもありと承知しております。

なお、令和6年能登半島地震では、学内道路の陥没・崩落や体育施設が使用不能になるなど様々な被害が生じました。これに伴い多くの規制、活動の停滞等が想定されますが、教職員が一丸となり、速やかな回復に邁進していく所存です。

最後になりましたが、運営諮問会議の皆様には、ご多用な中での多大な労に心から深く感謝申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年3月28日

石川工業高等専門学校
校長 嶋 倉 剛

目 次

はじめに

I	これまでの経過	1
II	外部評価（運営諮問会議）	
1	石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	2
2	令和5年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要	3
3	外部評価シート	9
III	全体講評	13
	運営諮問会議開催の公表	14

おわりに

I これまでの経過

第1回運営協議会（平成16年3月開催）

第2回運営協議会（平成17年3月開催）

第3回運営協議会（平成18年3月開催）

第4回運営協議会（平成20年3月開催）

平成20年度運営諮問会議（平成21年3月開催）

平成21年度第1回運営諮問会議（平成21年11月開催）

平成21年度第2回運営諮問会議（平成22年3月開催）

平成22年度運営諮問会議（平成23年3月開催）

平成23年度運営諮問会議（平成24年3月開催）

平成24年度運営諮問会議（平成25年2月開催）

平成25年度運営諮問会議（平成26年2月開催）

平成26年度運営諮問会議（平成27年2月開催）

平成27年度運営諮問会議（平成28年2月開催）

平成28年度運営諮問会議（平成29年3月開催）

平成29年度運営諮問会議（平成30年3月開催）

平成30年度運営諮問会議（平成31年2月開催）

令和元年度運営諮問会議（令和2年2月開催）

令和2年度運営諮問会議（令和3年2月開催）

令和3年度運営諮問会議（令和4年3月開催）

令和4年度運営諮問会議（令和5年3月開催）

令和5年度運営諮問会議（令和6年3月開催）

Ⅱ 外部評価（運営諮問会議）

1 石川工業高等専門学校運営諮問会議 委員名簿

北陸先端科学技術大学院大学
理事（学生・教育，国際担当）・副学長 飯 田 弘 之

石川工業高等専門学校 同窓会 会長
（聖建築設計事務所 代表） 石 村 聖一郎

石川県小中学校長会 副会長
（金沢市立医王山中学校長） 田 中 宏 志

石川県商工労働部長 光 永 祐 子

公益財団法人石川県産業創出支援機構 常務理事 村 田 潔

金沢大学 理事（教育・高大院接続・大学院改革・
情報担当）・副学長 森 本 章 治

津幡町長 矢 田 富 郎

石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長
（株式会社コスモサミット 代表取締役社長） 山 西 幸 一

（五十音順）

2 令和5年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要

(1) 日 時 令和6年3月4日(月) 14:00~16:30

(2) 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

(3) 出席者

・運営諮問会議委員

飯 田 弘 之 (北陸先端科学技術大学院大学 理事(学生・教育, 国際担当)・副学長)

石 村 聖一郎 (石川工業高等専門学校 同窓会会長)

(聖建築設計事務所 代表)

田 中 宏 志 (石川県小中学校長会副会長)

(金沢市立医王山中学校長)

村 田 潔 (公益財団法人 石川県産業創出支援機構 常務理事)

森 本 章 治 (金沢大学 理事(教育・高大院接続・大学院改革・情報担当)・副学長)

山 西 幸 一 (石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長)

(株式会社コスモサミット 代表取締役社長)

・学校側出席者

校 長 嶋 倉 剛

副校長(管理運営担当) 富 田 充 宏

副校長(地域・国際連携担当) 道 地 慶 子

校長補佐(教務主事) 義 岡 秀 晃

校長補佐(学生主事) 畔 田 博 文

校長補佐(寮務主事) 岩 竹 淳

校長補佐(図書情報主事, 図書館長) 佐 野 陽 之

校長補佐(入試広報担当) 徳 井 直 樹

専攻科長 山 田 悟

事務部長 本 芳 則

総務課長 亀 田 潤

学生課長 河 岸 孝 政

・欠席者 光永委員, 矢田委員

<会議写真>



飯田議長



嶋倉校長



森本委員



石村委員



田中委員



村田委員



山西委員



会議風景（本校出席者）

(4) 議事概要

【開 会】

総務課長から、令和5年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。引き続き、配付資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶及び議長選出】

嶋倉校長から、令和6年能登半島地震による本校の被災状況説明及び復興支援への謝辞があり、その後、当会議の議長を飯田委員（北陸先端科学技術大学院大学 理事（学生・教育、国際担当）・副学長）に委嘱したい旨の提案があり、了承された。また、運営諮問会議委員に対し、配付資料及び当会議の結果を踏まえた評価シートへの評価記載について、協力依頼があった。

【議 事】

1. 「石川工業高等専門学校の実況 外部評価のための資料」の概要

標記全体説明及び資料の各章の概要について、次のとおり説明があった。

全体説明（嶋倉校長）

I 理念・目的

第1章 学校の目的（富田副校長）

II 教育活動

第2章 教育組織（実施体制）（富田副校長）

第3章 教員及び教育支援者等（富田副校長）

第4章 学生の受け入れ（徳井校長補佐（入試広報担当））

第5章 教育の方法および内容（義岡教務主事）

第6章 教育の成果（義岡教務主事）

第7章 学生支援（義岡教務主事，畔田学生主事，岩竹寮務主事）

第8章 施設・設備（富田副校長，佐野図書情報主事）

第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム（義岡教務主事）

III 研究活動

第10章 研究体制と支援（道地副校長）

IV 社会活動

第11章 地域社会との連携（道地副校長）

第12章 国際社会との交流（道地副校長）

V 広報・評価・管理運営

第13章 広報活動（佐野図書情報主事）

第14章 本校が受ける評価（富田副校長）

第15章 財務（亀田総務課長）

本校からの説明後、質疑応答、意見交換が行われた。

主な質疑等は以下のとおり。

○（委員）

DX や GX を推進した二つの特徴的なコースの新設等非常にたくさんの教育改革を行っておられるが、それぞれの専門分野の教育がどこまで削減されているのかを教えてください。専門教育よりもゼネラリスト的なものでやろうとすると、今までの考え方やスタンスをかなり変えなければならなくなるのではないか。一部を広げてあまり専門に特化しない形とするのか、方向性や考え方を伺いたい。

（本校）

本校では、DX・GXに舵を切ろうとしている。令和7年度から導入するコース制は、電子情報工学科を除く4学科に、先進科学融合コースと情報科学融合コースを設置する。これらについては、軸足は崩さないことが前提で進んでいるため、学科のポリシーが大きく変わるわけではない。改組の前後で学科の同一性は維持されることになる。1年生には共通のリテラシーがあり、情報学的なプラスαは、2、3年生において夏季集中講義で設定とする、従来からあった学科のPBLを情報に近づけた内容にする、卒業研究の指導においても分野の中でデジタルに関係の深いところを入れるなどの設計となっている。一方、GXでは、カーボンニュートラルや防災関係等の科目を、5年生の必修科目に、別のコースにないものを1・2科目追加する形をとっている。また、先端科学融合コースの学生が、情報について学びたいという場合は、情報の科目を選択できるような仕組みとなっており、志向に合わせて学生が自分でコーディネートできるように設計している。

（委員）

学生は、どれくらいの科目を必修や選択科目でとることを要請されるのか。専門科目は減らさず、学生の負担が増えるということになるのか。

（本校）

卒業要件の167単位は変わらないため、これまでより多く単位を取らなければならないということではない。

（委員）

選択科目の一部をDXやGXに変えていくということか。

（本校）

そのような考え方もできると思う。

○（委員）

学生支援では、モニタリングをして学生の退学率を減らすことが大事で、学生の進捗状況を可視化して見て行くことは、教育機関にとっては、どのレベルにおいても重要なことと思う。その辺のノウハウ等が十分に機能しているか、どういうところに問題があるのか、また、まだ課題の途上であるのかお尋ねしたい。

（本校）

本校では、教学マネジメントを始めてまだ年数が浅く、今年度実施した内容はデータ分析となる。本校では年4回試験があるが、留年の可能性について、早期発見の観点から分析すると、あまり欠課時数は相関なく、前期中間試験の段階で欠点科目が4科目、期末試験であれば5、6科目あると留年に対する蓋然性があるというデータが出た。クラスに留年の可能性のある学生が何人いるかといった情報は、教員会議等で発信し、学科として夏休み期間中

での補講等対応を行うよう要請している。

(委員)

学業不振，就職の問題及び財政上の問題の3つが柱だと思っている。石川高専では，そのうち学業不振をモニタリングしているという理解でよいか。

(本校)

その御認識で間違いない。IRとしては新しいところだと思っている。

○ (委員)

地震で被災した復旧工事等の予算について，国から予算措置されるのか，学校の予算となるのか伺いたい。

(本校)

道路の補修や下水の配管等の応急的な措置は，国立高専機構から配分される校費で行うことになる。また，グラウンド，体育館等主要な施設の復旧整備は，国の予算となる。ただ，どのくらいの被害があり，どのような対策が必要となるのか調査が入り，令和6年度の予算で計画，設計が行われることとなるため，実際に整備が行われるのは令和7年度以降となると思われる。

○ (委員)

昨年秋から冬にかけて，北陸先端科学技術大学院大学の留学生と石川高専の日本人学生がワンデー留学で交流を行った。高専生が楽しそうに留学生と会話している姿をみて，グローバルに興味があるように感じた。石川高専の留学生は全体の1パーセントのみであることから，留学生がどのようなグローバルなセンスで日本人学生に影響を与えるか，どのように留学生を活用しているかが大切であると考えている。その辺りはいかがか。

(本校)

現在，日本人学生と留学生の交流があまりない。そのため，学校として交流の場を設定しなければならないと考えている。今回の，北陸先端科学技術大学院大学の留学生との交流では，特にグローバルに関心のある学生が他の学生を引っ張っていったように思う。石川高専の留学生は日本語ができるため，英語が話せなくても会話に支障がないという状況。ただ，今年度から，タイのキングモンクット工科大学から短期で研修生の受入を再開しており，次年度においても受入を予定しているため，こういった研修生との交流により，英語を話す機会として活用できればと考えている。

【閉 会】

嶋倉校長から，委員に対する謝辞に引き続き，総務課長から閉会宣言があった。

(以上)

(5) 資 料

1. 石川工業高等専門学校^の現況-外部評価のための資料-
2. 石川工業高等専門学校の現況（資料編）
3. 石川工業高等専門学校評価シート（別途：5段階評点基準）（委員のみ）
4. 石川工業高等専門学校運営諮問会議規程
5. 石川工業高等専門学校「学校要覧」（2023年度版）
6. 石川工業高等専門学校 2024 学校案内リーフレット
7. 石川工業高等専門学校の課題 令和4年度 外部評価報告書
8. トライアル研究センター ニュースレター Vol.46, 47

3 外部評価シート

記入要領

評点欄には下の基準による5段階評価の評点をご記入ください。

- 5：優れている あるいは 適切である。
- 4：やや優れている あるいは ほぼ適切である。
- 3：普通 あるいは どちらとも言えない。
- 2：やや劣っている あるいは あまり適切とは言えない。
- 1：劣っている あるいは 適切とは言えない。

部	章番号	章タイトル	令和5年度		令和4年度
			自己評価 平均評定 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)
第Ⅰ部 理念・目的		本校の精神			
		沿革 概要及び卒業生			
	1	学校の目的	5.0	5.0	5.0
第Ⅱ部 教育活動	2	教育組織（実施体制）	5.0	5.0	5.0
	3	教員及び教育支援者等	4.6	4.6	4.6
	4	学生の受け入れ	5.0	5.0	5.0
	5	教育の方法および内容	4.6	4.6	4.6
	6	教育の成果	4.8	5.0	4.8
	7	学生支援 学習支援等（7.1～7.4） 進路指導（7.9～7.10）	4.8	5.0	4.8
		学生支援 課外活動・生活指導・ 学生相談等（7.5～7.7）	4.6	4.8	4.6
		学生支援 学生寮（7.8）	5.0	5.0	5.0
	8	施設・設備 共同利用施設	4.3	4.8	4.3
	9	教育の質の向上及び改善のための システム	4.6	5.0	4.6
第Ⅲ部 研究活動	10	研究体制と支援	5.0	4.8	5.0
第Ⅳ部 社会活動	11	地域社会との連携	5.0	5.0	5.0
	12	国際社会との交流	4.5	5.0	4.5
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	13	広報活動	4.6	5.0	4.6
	14	本学が受ける評価			
	15	財務			

委員のご意見

部	章	記入欄
第Ⅰ部 理念・目的	本校の精神 沿革 概要及び卒業生 第1章 学校の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・創設理念や目的を大切にし、校長先生の確かなリーダーシップの下に、教職員が一丸となって、社会に貢献できる人生育成に取り組んでいる。引き続き、この方向で歩んでいただきたい。 ・情報戦略基盤センターという名称は高専側から見れば理解できるが、学生側から見た場合には奇異に感じる。 ・高専らしい理念・目的に共感する。
第Ⅱ部 教育活動	第2章 教育組織（実施体制）	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間をコロナ禍で過ごしてきた新入生を迎え、学力・友人関係など、その対応は現場でかなり大変であろうと容易に推測できるが、現況の説明を聞く限りでは、従来同様、高い水準を保ちながら、教育全般を遂行できていることは非常に高く評価できる。また、地震被害により大きなダメージを受けている大変な時期にあっても、校長先生を中心に教職員が一丸となって、学内運営、学生支援などなど多方面にわたり注力し、全国の高専の中でも大変秀でていることが実に素晴らしい。教育改革として、政府の助成金事業も推進しており、時流にあった教育内容を常に更新している点も評価できる。入学生の質保証から卒業生の質保証まで皆が一丸となって社会に確かな人材を送り出すための賢明な取り組みはまさに高く評価すべき点である。教職員の負担に配慮しつつ、この方向で進めることで、ますます良い教育環境が整えられるものと期待される。 ・教学 IR 室の設置は時宜にかなっており、推薦入試の方が入学後の成績がよいことを IR で明らかにして、入試改革につなげていることは評価できる。 ・専門学科の女性教員が少ないのは多少は理解するが、一般教育科の7名は少なくないのか。専門学科も含めて、女性教員比率を上げる努力も必要である。 ・全国平均よりも高い入試倍率を維持できていることは日頃の教育活動の賜である。 ・COMPASS5.0 蓄電池分野で拠点校に採択されことを機に、石川高専の蓄電池を含むパワエレ分野が真に強い教育研究分野として確立されることが望ましい。
	第3章 教員及び教育支援者等	
	第4章 学生の受け入れ	
	第5章 教育の方法および内容	

	<p>第6章 教育の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携宇宙 AI コンペを通じた「インテリジェント宇宙機」開発人材育成でも大学と連携し成果を挙げてください。 ・全学科に先進科学融合コースと情報科学融合コースを設置して、専門性の追求と高度情報人材の育成強化の目的は理解できるが、現実のカリキュラム編成においては純粋に科目追加になると学生負担が増すが、どのようにこの問題に対応しているのか理解しづらい。なお、外部評価の資料に「輩出」を「排出」とする誤記がある。 ・試験問題の集約とチェックを組織的に取り組んだ姿勢は評価できる。 ・普段から MS Teams や Forms を運用し、能登半島地震での安否確認を迅速に実施できたことは素晴らしい。
	<p>第7章 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率・留年率とも全国平均を大きく下回り、丁寧な学生支援体制が維持されていることがうかがえる。 ・建築学科の設計の科目について、もっと非常勤講師を多く採用した方がよい。実務をしている高専 OB が県内にも大勢おり、声をかければ協力していただける方は多い。
	<p>第8章 施設・設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学・留年率の低さ及び防止の取組は高く評価できる。 ・こまめな学生支援がなされており、成果も期待以上のものがある。地震により、施設・設備への影響が予想外に大きいようであり、速やかに復旧できるよう関係方面への働きかけも併せて望む。
	<p>第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	
<p>第Ⅲ部 研究活動</p>	<p>第10章 研究体制と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の採択については引き続き順調であることから、多忙な中でも各教員が研究に熱心に取り組んでいる点が現れている。申請書を洗練させるための取り組みを継続している点も評価できる。在学生在が研究活動に従事することで、どのような教育効果があるかが問われるところであるが、どのような人材育成を目指すかの方針にも依拠するところであり、起業家を目指す可能性も含め、研究の一端に触れることのメリットが可視化できると面白いのではないかと。 ・令和5年度科研費の新規採択7件、継続18件、計25件は例年に比べ少ない様に見える。そもそも期間延長件数も合計するのは適切ではないように思える。 ・新しい挑戦もあり、期待している。

<p>第Ⅳ部 社会活動</p>	<p>第 11 章 地域社会との連携 第 12 章 国際社会との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業界との接点を強めることで、在学中の学修意欲を啓発し、産業界への就職をスムーズにするべく努めている点は高く評価できる。海外インターンシップの実施、海外からの留学生受け入れ、地元産業界からの支援、STEAM 教育など興味深い取り組みを実施している点は評価できる。卒業後、世界的に活躍できる可能性をも意識して教育プログラムの中に取り入れている点は高く評価できる。 ・コロナ禍明けの 2023 年度に、建築学科 47 名で台湾への研修旅行を再開できたことは有意義である。2024 年度には是非、全学科で実施願いたい。 ・コロナ禍でも、対応できることは実施し成果があったことは評価できると思う。 ・コロナ禍を過ぎ、広がりをもっと深めていただきたい。
<p>第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営</p>	<p>第 13 章 広報活動 第 14 章 本校が受ける評価 第 15 章 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Newsletter を通してステークホルダー等との情報共有を継続して努めている点は大いに評価できる。志願者への広報（入試広報）の面でも入試倍率を維持し定員充足を達成し大いに評価できる。体験入学やオープンカレッジなど志願者確保および入学者の質保証の観点で今後の取り組みに注目したい。
<p>[全体についてのご意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対して丁寧な学習指導をされている。今後も更なる教育の質の向上をめざし、取り組んでいただきたい。また、地震からの復興に尽力願いたい。 		

Ⅲ 全体講評

・学生に対する様々なケアに関する説明を受け、改めて先生方の大変さを感じた。数十年前の過去と比較すると、留年する学生が大幅に減少しており、1パーセントであるという事実は、相談を受ける先生方の大変さを知ることができる。また、石川高専の目的に掲げられている「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する」とは、まさに高専生を示すものと思う。今後も、この目的を達成できるようがんばっていただきたい。なお、震災の話題があったが、被災に係る復興等について、同窓会として支援できることがあれば連絡いただきたい。

・石川高専で学ぶ子は恵まれていると感じた。コロナ禍が中学校において、どのように影響を及ぼしたかという点、学力よりもコミュニケーションが大きい。コミュニケーション不足によりいじめがおこり、それに対応できずに不登校になることが大きな問題となっている。石川高専では、スクールカウンセラーが常駐しており、留年・退学者が全体の1パーセントであることは、中学校の現場を預かるものとして大変ありがたく、安心して生徒を送り出すことができる。これからもがんばっていただきたい。

・とても学生を大事にしている学校であると改めて思った。また、その分、先生方は大変であると感じた。

・石川県では、産学官金のコンソーシアムで「いしかわ新事業創出支援コンソーシアム」を設置した。学生の企業就職や起業についてこれまで以上に關心を持つとともに、石川県内の産業復活のため対応していきたい。ご協力をお願いしたい。

・石川高専では、様々な取り組みを行い、その成果もすばらしいものと思う。これらは、金沢大学にも取り入れるよう考えている。また、地震で、石川県内の大学への進学希望者が減少するのではと懸念されてはいるが、県内の高等教育機関で協力していきたいと考えている。

・石川高専の特徴として、校長先生を中心に教職員がワンチームで強くまとまっていると感じている。益々充実した教育体制を築いてほしい。

石川高専、運営諮問会議を開催

石川高専では、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を3月4日に開催した。同会議は、石川高専の教育、研究、社会活動等を自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言から、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

今年度は、大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から校長、副校長、主事など幹部教職員12名が出席。はじめに、嶋倉剛校長の挨拶と今年1月1日に発生した令和6年能登半島地震での被災状況の説明とともに、復興支援への謝辞が述べられた。続いて、議長に、北陸先端科学技術大学院大学の飯田理事(学生・教育、国際担当)・副学長が選出された。



議長の飯田北陸先端大理事・副学長



発言する森本金沢大理事・副学長

議事に入り、嶋倉校長による学校の概要説明に続き、各担当者による教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献や国際交流などが説明され、質疑応答や活発な意見交換が行われた。出席した委員からは、多くの有意義な意見や提言が寄せられ、最後に各委員から全体の講評が述べられた。

同校では、今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の研究活動の充実につなげることをしている。

【外部評価委員】▽飯田弘之北陸先端科学技術大学院大理事・副学長(議長)▽森本章治金沢大理事・副学長▽村田 潔石川県産業創出支援機構常務理事▽山西幸一(株)コスモサミット代表取締役社長・石川工業高専技術振興交流会会長▽石村聖一郎聖建築設計事務所代表・石川高専同窓会会長▽田中宏志金沢市立医王山中学校校長・石川県小中学校長会副会長



学校の概要説明を行う嶋倉校長

学外有識者による外部評価 石川高専、運営諮問会議を開催

石川高専は3月4日、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を開催した。

同会議は、石川高専の教育、研究、社会活動等を自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言から、今後の教育の改善、研究及び地域貢献の活性化を図ることを目的としている。今年度は、大学や地域企業等の学外有識者6名と学校側から嶋倉剛校長、副校長、主事等幹部教職員12名が出席した。

はじめに、嶋倉校長の挨拶と今年1月1日に発生した令和6年能登半島地震における被災状況の説明及び復興支援への謝辞があった。議長には、北陸先端科学技術大学院大学の飯田弘之理事・副学長が選出された。

議事に入り、嶋倉校長による学校の概要説明に続き、各担当者による教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献や国際交流等の説明があり、質疑応答や活発な意見交換が行われた。委員からは、多くの有意義な意見や提言が寄せられ、最後に各委員から全体の講評が述べられた。

同校では、今回の貴重な提言を生かして一層の運営改善を行い、今後の研究活動の充実につなげていくこととしている。



会議で発言する嶋倉校長④

おわりに

令和6年の元日に発生した能登半島地震で本校は甚大な被害をうけました。校舎、学生寮および養高館は、1週間遅れの1月15日からの授業が再開できる状況になりましたが、第一体育館、第二体育館、武道場は、被害が激しく使用禁止の状況です。また、法面の崩壊によりテニスコート、車庫、部室も使用できなくなり、液状化により整備したグラウンドも再整備が必要となっています。このような状況の中、令和5年度の運営諮問会議を無事に開催できたことに対し、出席された委員の皆様をはじめ、関係者各位に感謝を申し上げます。本校の教育活動や取組に対する外部有識者からのご意見を伺える本会議は、本校にとって貴重な機会であり、開催できたことは本当に幸いなことであります。

高専の理念・目的については、校長先生の確かなリーダーシップの下に、教職員が一丸となって、社会に貢献できる技術者育成に取り組んでいると、委員の皆様からは総合的に高い評価をいただきました。

また、教育活動については、一定期間をコロナ禍で過ごしてきた新入生を迎えながら、従来同様の高い水準を保ち教育全般を遂行していることについて非常に高く評価していただきました。地震被害により大きなダメージを受けている時期にあっても、入学生の質保証から卒業生の質保証までの賢明な取り組みについても高い評価をいただきました。さらに、退学率および留年率の低さも評価していただき、今後も学生主事・学生支援委員会・担任の連携を密に対応をしていきたいと考えています。

研究活動については、昨年度に引き続き科研費の採択件数について高い評価をいただきました。教育と学生支援とのバランスを取りながら今後も研究活動を進めて、研究成果の実績を高めていくつもりであります。

地域社会との連携と国際交流については、在学中の学修意欲を啓発し、産業界への就職をスムーズにするべく努めている点や海外インターンシップの実施、海外からの留学生受け入れ、STEAM教育など取り組んでいる点、また、志願者への広報の面でも入試倍率を維持し定員充足を達成している点に高い評価をいただきました。

全体としては、委員の皆様から石川高専の活動全般として高い評価をいただきましたが、教職員の負担に考慮すべきなどのご指摘も受けました。本校教職員はご指摘された教育改善に取り組み、本校の教育理念を継続して、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者を育成していく所存であります。

最後に、年度末のご多忙かつ大変な状況の下で、多大なご尽力をいただきました運営諮問会議委員各位に対し、深甚の謝意を表します。また、自己点検評価報告をまとめた本校の運営会議、点検評価委員会の委員各位、報告書・資料集の取りまとめおよび作成にあたった総務課の皆さんにお礼を申し上げます。

令和6年3月28日

石川工業高等専門学校
副校長 富田 充宏



石川工業高等専門学校の課題
令和5年度 外部評価報告書

発行 令和6年7月
編集 総合企画会議
発行者 石川工業高等専門学校
〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条夕1
TEL 076-288-8000
FAX 076-288-8014
URL <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/>



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College